

自己評価結果公表シート

1.教育目標

知・育・体 バランスのとれた保育
 ・明るく豊かな心をそなえた子
 ・聞く態度を身につけ、探求と創造と自立に燃える子
 ・互いに助け合い、仲間づくりに励む、健康で元気な子

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した評価の具体的な目標や計画

令和2年度スローガン
【3歳以上児】「やってみよう」子どもの勇気を笑顔につなげよう！
【3歳未満児】「できるかな？」「やってみよう」小さな一歩は明日につながる大きな一歩

3.評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
子どもをいつも視野の中に入れ、何かあったらすぐに行動に移せるように心がけていますか。	A	広い視野で子どもたちを見るよう常に心掛けている
物事は見る方向によって変わって見えます。子どもを一面からではなく、多面的に見るように心がけていますか。	A	チーム保育で一人の主観ではなく、様々な保育者の意見を取り入れるようにしている
子どもの成長発達把握のために、自分なりに工夫した記録をとっていますか。	B	クラス単位で記録はとっているが、個人ではまだとれていない人もいる
子どもの生活の場である教室を整備し、楽しい雰囲気構成していますか。	A	子どもたちの興味・関心事にアンテナを持ち、取り入れられるよう工夫している
社会の出来事について関心を持ち、理解していますか。	B	ニュースや新聞から情報を得られるようにしているが、まだ足りない部分もあると感じる

4.評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	目標の通り、子どもたちだけではなく、職員も何事にも挑戦した一年であった。職員間で様々な意見を出し合い、コロナ禍ではあったが工夫して過ごすことができた。

5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な方法
【3歳以上児】 自信と意欲を持ち、たくましく生きる子どもを育てよう	左記のスローガンを掲示し、毎朝の朝礼時に全員が口にすることで意識を高める
【3歳未満児】 「はじめて」を全力サポート一人ひとりの笑顔を映かせよう	

施設関係者評価レポート

課 題	幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育課程に基づく指導計画の作成や指導実践について	
テーマ	自発的、主体的に遊びを展開出来るようになっていく満三歳児（二歳児）の関わり方を探る。	
<p>1 目指す幼児の姿</p> <p>様々な遊びを友だちと経験する中で、自発的で主体的な遊びや生活を送り、自ら楽しめる子ども（関連する園の目標は、「なかよくする子、互いに助けあい、仲間作りに励む、健康で元気な子」）</p> <p>2 幼児の実態と教師の願い</p> <p>遊びがなかなか持続せず、保育室の中を走り回ってしまう姿や自分のやってみたい遊びが見つけれず、うろうろしてしまう姿が見られる。</p> <p>様々な遊びを提供する中で、経験や体験を増やして行ってほしい。自らが楽しめる遊びを見つけていき、熱中して遊べるもの、集中する時間を増やして行ってほしい。</p> <p>3 評価の流れ</p> <p>(1) クラスの実態を他の担任と話し合い、どんな経験や体験が必要かまとめる。</p> <p>(2) 7月17日開催の公開保育に向けた指導案を作成し、検討、実践する。</p> <p style="padding-left: 2em;">参加者：園長・副園長・主任・保護者代表者2名</p> <p>(3) 保育実践後、園長を含めた振り返り評価の検討、今後の指導改善の方向付けをする。</p> <p>4 実践内容</p>		
幼児の様子	環境の構成・教師の援助	考察
<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを選び、保育者や友だち、または一人で遊ぶ。 ・遊ぶものを変え、様々な所で遊ぶ子、じっくり一つの所で遊ぶ子がいる。 ・おままごと（ジュース屋さんごっこ）では、友だちとのやりとりも見られる。 ・のり付け遊びでは、保育者にやり方を聞きながら集中して取り組む姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おままごと（ジュース屋さんごっこ）、シール貼り、のり付け遊び、紐通しコーナーを保育室に準備しておく。 ・遊びに積極的になれない子どもには、無理強いせず遊んでいる様子を観察してから自主的に入れるまで見守る。 ・時には子どもたちの間に入りながら、方法を示し、やりとりを一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを自由に選び、主体的に取り組むことでより熱中して遊び込むことができた。 ・遊びに積極的になれない子どもに対して無理強いせず、自発的に遊びに参加出来るまで見守ることで、子どもの主体的な遊びにつながった。 ・保育者、友だちとのやりとりの中で遊びが広がり、楽しいという気持ちが芽生えた。

5 振り返り・評価

(1) 遊びの経験や体験の必要性

遊び方や友だちとの関わりは、実体験を通して学んでいくものと考え。様々な遊びがあることを知り、年齢が低い時期には保育者を仲立ちとして遊びを広げること
で友だちとの関わりにもつながっていくと感じた。

(2) コーナー遊びの実践

保育室を4つにパーテーションで区切り、好きな遊びを主体的に選べるようにする
ことによって、遊びに集中しじっくり遊び込むことが出来たと感じる。様々な遊び
を知ることによって今後自発的な生活を送ろうとする力、自ら楽しむという気持ち
が育まれていくと考える。

(3) 評価と今後の指導改善

- ・年齢や子どもたちの様子に合った遊びを提供していた。
- ・援助を出しすぎず、子どもたちの主体性を大切にしたい保育だった。
- ・ルールを決めすぎず、時に臨機応変な対応も必要。子どものやりたいという気持ち
を尊重することも大切。

などの助言等を参加者より頂いた。低年齢の時期に丁寧に関わり、気持ちを尊重す
ることによって、次第に自発的、主体的な遊びが展開されていく。長期的な成長を視
野に入れながら、遊びを提供することによって子どものさらなる成長の一つになっ
ていくと考える。

園長総評

今年度は新型コロナウイルス感染症対策や行事の延期などで、全クラス実施する予
定であった公開保育は2歳児のみとなり、参加者も最小限に絞っての実施となった。

また保護者による給食試食による評価も、今年度は中止となった。

コロナ禍において通常通り保育を行うことは厳しい状況ではあるが、その中でしっ
かりとテーマを持って実践できたことは評価できる。

一方、2歳児という大変難しい年齢において、時に前例が役に立たない場面も多く、
クラス全体と個々の育ちのバランスを考えながら臨機応変に対応しなければならない
ため、今後丁寧な計画とかかわりが重要となる。

次年度に向けた取り組みに期待したい。

令和2年9月記